

第1学年 音楽科 学習指導案		日時	令和2年11月20日(金) 5校時
題材名	2 内容(2) B 鑑賞 ア (ア) イ (ア)	学年・組	第1学年A組
	詩の内容と曲想との関わりを感じ取ろう。『魔王』	人数	男子12名(内交流学級2名) 女子15名
指導者	西 奈那子	場所	尾道市立因北中学校 音楽室

1 題材観

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説音楽編では、2内容(2) B表現「ア(ア)鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。」「イ(ア)曲想と音楽の構造との関わりを理解すること。」と示されている。

本題材では、詩の内容を手がかりに情景をイメージすることができ、登場人物の声の音色や強弱、音の高さ等の旋律の変化に着目して聴くことで、曲想と音楽を形づくっている要素との関わりを捉えやすい楽曲である『魔王』を扱う。また『魔王』は、4人の登場人物の心情の変化を独唱という演奏形態で表現しているという点に音楽表現の豊かさや幅広さを感じることができる楽曲であるため、生徒が、演奏者による表現の工夫と曲想との関わりにも考えを広げながら、楽曲のよさや美しさを見いだすことができると考えられる。これらの学習を通して、曲想と音楽の構造との関わりを理解するとともに、それらを根拠として自分なりの言葉で評価したり、他者に伝えたりすることで楽曲のよさや美しさを再認識し、楽曲全体の内容を価値あるものとして捉えられるようになることが期待できる。

2 生徒観

1学期の鑑賞では、J.ウィリアムズ作曲『ジョーズ』のテーマ、ヴィヴァルディ作曲『春』を学習した。『春』では、音色・形式・テクスチュアに、『ジョーズ』のテーマでは、音色・リズム・速度・強弱・音の高さに着目して鑑賞し、それらの変化に伴う曲の雰囲気や曲想の変化を自分の言葉で表現するという活動を取り入れてきた。

本題材の指導事項に係る意識調査の結果、「音色や音の高さ等、音楽を形づくっている要素を指定して鑑賞した場合、それらの変化を知覚することができる(知識)」生徒は82%であった。また、「音色や音の高さ等の音楽の特徴によって、楽曲がどのようなイメージの曲なのか、自分はその楽曲をどのように感じたのかを自分なりに説明することができる(思考力・判断力・表現力等)」生徒は89%であった。いずれも音楽科の授業への学習意欲の高さを感じられるが、本楽曲については、「子どもは父に助けを求めているから、徐々に声の高さが高くなって叫ぶような感じ」や「魔王は、子どもを誘っている様子を表すために優しい声で歌われている」といった表層的な捉えで終わることなく、「『魔王』のことを何も知らずに聴いたときと、学習を終えて聴いたときとでは、まるで感じ方が違って、何倍も面白く聴くことができた」等、本題材の学習を通して、生徒が自らの感性を豊かに働かせて、音楽のよさや美しさ等をより一層深く味わって聴くことができるような学習活動を展開していきたい。

3 指導観

本題材を貫く学習課題として「なぜ『魔王』は、“今も昔も”聴き手を惹きつけるのか」を設定し、205年もの間、聴き・歌い継がれる楽曲の魅力を考えさせたい。

指導に当たっては、まず、楽曲の全体像を掴ませるために、タイトルを提示せずに鑑賞させ、初発の感想を交流させる。自分なりの感想を持つことが難しい生徒には、「どのような感じがしたか」や「どのような雰囲気(イメージ)だったか」等を具体的に問いかけたり、「どのようなお話だと思うか」、「イメージした場面を絵や漫画で描いてみよう」と促したりして、思いを引き出すようにする。その後、「なぜ『魔王』は、“今も昔も”聴き手を惹きつけるのか」と問い、現段階における楽曲に対する自分なりの価値を考えさせ、本題材の学習に見通しを持たせる。

次に、「『魔王』の魅力を見つけよう」という課題を設定し、主要な登場人物である子どもと魔王の声の音色や強弱、音の高さ等、旋律の変化に焦点を当てて鑑賞させることで、曲想と音楽の構造との関わりを理解させる。その際には、演奏を根拠に、子どもの歌詞の順番を考えさせるという操作活動を取り入れたりと、生徒の気づきや発言をもとに旋律を聴き返したり、子どもや魔王の歌詞を朗読させたりする等して、曲想と音楽の構造との関わりについて体験的に理解させるようにする。また、混声合唱版『魔王』との比較聴取を通して、独唱ならではの表現の繊細さや幅広さ、豊かさに気づかせるようにする。

最後に、再度「なぜ『魔王』は、“今も昔も”聴き手を惹きつけるのか」と問い、学習したことを踏まえた上で自分なりの考えをまとめさせた後に、再度鑑賞させる。その際には、他者との関わりの中から自分の価値意識を再確認したり、客観的な意見を取り入れて音楽の味わいをより深めたりすることで、1人1人の学習の深まりにつなげられるようにする。

これらの学習を通して、楽曲全体の内容を価値あるものとして捉えさせ、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる力の向上を図るとともに、音楽に対する感性を育てていきたい。

4 題材の目標

- (1) 『魔王』の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、曲想と音楽の構造との関わりを理解する。(知識)
- (2) 『魔王』の曲想と音楽の構造との関わりについて考え、よさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 『魔王』の魅力と、その魅力を引き出す独唱の表現に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。(学びに向かう力、人間性等)

5 題材の評価規準

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	○声の音色や強弱、音の高さ等の旋律の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	○『魔王』の魅力と、その魅力を引き出す独唱の表現に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

6 題材構想

(全3時間)	学習課題	生徒の学習活動	評価規準	評価方法
第1次	◎題材の概要・課題設定 「なぜ『魔王』は、“今も昔も”聴き手を惹きつけるのだろうか」	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルを提示せずに「魔王」を鑑賞し、曲の全体像を掴む。 ・演奏形態や登場人物を予想しながら聴き、曲の概要を掴む。 ・課題について考え、学習の見通しを持つ。 	○主体的に学習に取り組む態度	WS① 行動観察
第2次	◎情報の収集・整理・分析① 『魔王』の魅力を見つけよう。Part. 1」	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども」と「魔王」の旋律を聴き、演奏を根拠に、子どもと魔王それぞれの歌詞(セリフ)を並び替える。 ・音楽の構造と曲想(登場人物の心情)の結びつきを、作曲家や演奏者がどのように表現しているのか考える。 ・本時で考えたことをもとに、魔王の魅力を整理し、楽曲を鑑賞する。 	○知識 ○思考・判断・表現	WS② 行動観察
第3次	◎情報の収集・整理・分析② 『魔王』の魅力を見つけよう。Part. 2」 ◎探究 「なぜ『魔王』は、“今も昔も”聴き手を惹きつけるのだろうか」 ◎ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱版『魔王』を鑑賞し、独唱ならではの表現の豊かさを感じ取る。 ・作曲家、作詞者等の情報を整理する。 ・これまでに学習したことを踏まえて、課題に対する自分の考えを批評文にまとめ、交流する。 ・全3時間の学習で学んだこと、掴んだこと等を踏まえて、鑑賞する。 	○思考・判断・表現 ○主体的に学習に取り組む態度	WS③ 行動観察

7 本時の展開

(1) 本時の目標 声の音色や強弱、音の高さ等の旋律の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている。

(2) 学習の展開

学習内容 (○) 学習活動 (・) 【学習形態】	指導上の留意事項 (◇) (◆…「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て)	評価規準【観点】 (評価方法)
<p><導入></p> <p>1 ○全曲を通して鑑賞させる。(4分)【全体】 ・前時の学習内容を確認しながら鑑賞する。</p> <p>2 ○前時の学習内容を想起させる。(2分)【全体】 ・前時のワークシートの記述内容を交流する。</p>	◇本時の学習につながる記述を提示し(ICT)課題意識を持たせる。	
<p>学習のめあて 『魔王』の持つ魅力を見つけるために、子どもと魔王の旋律に着目して聴こう！</p>		
<p><展開></p> <p>3 ○子どもの旋律に着目して鑑賞させるとともに、曲想と音楽の構造との関わりについて聴き取らせ、意見交流をさせる。(15分)【個⇄班→全体】 ・音楽の構造と曲想(登場人物の心情)との結びつきを、作曲家や演奏者がどのように表現しているのか考える。 ・考えたことを意見交流する。</p> <p>4 ○魔王の旋律に着目して鑑賞させるとともに、曲想と音楽の構造との関わりについて聴き取らせ、意見交流をさせる。(15分)【個⇄班→全体】 ・子どもの声の音色や音の高さ、強弱と比較をしながら、音楽の構造と曲想(登場人物の心情)との結びつきを、作曲家や演奏者がどのように表現しているのか考える。 ・「作曲家や演奏者が、なぜこのような工夫をしているのか(=物語の内容を聴き手に伝えるため、当時の音楽家の想いを現代の私たちにつなぐため等)」について考える。</p>	<p>◇生徒が聴き取ったことをシューベルトによる「作曲の工夫(=音の高さの変化、強弱の変化)」と演奏者による「演奏の工夫(=声の音色の変化、強弱の変化)」に分類して、整理させる。</p> <p>◇「展開4」では、「展開3」の学習を生かして一体的に聴き取ることができるようにする。</p> <p>◇聴き深めながら話し合いができるよう、班に1台 Chromebook を持たせ、適宜鑑賞させる。</p> <p>◆自分の意見を記述することが難しい場合は、班会議内で発言したり、他者の意見をメモしたりするよう助言する。</p> <p>◆該当の部分の聴き返したり、セリフを朗読したりして、曲想と音楽の構造との関わりを実感できるようにする。</p>	<p>知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(WS②, 行動観察)</p>
<p><まとめ></p> <p>5 ○全曲を通して鑑賞させる。(4分)【個】 ・再度鑑賞し、作曲家と演奏者の工夫点を再認識する。</p> <p>6 ○本時の学習で発見した『魔王』の魅力や面白さ(作曲の工夫、演奏の工夫)についてまとめさせる。(10分)【個→全体】</p>	◇学習したことをもとに、楽曲全体を聴き味わわせる。	<p>思 声の音色や強弱、音の高さ等の旋律の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。(WS②, 行動観察)</p>
<p>【まとめ例】 『魔王』の魅力は、登場人物の気持ちを聴き手に伝えるために、作曲家であるシューベルトと演奏者が様々な工夫をしていることです。シューベルトは、最後にいくにつれて子どもの音を高く・強くするよう作曲し、演奏者は叫ぶように歌っています。このことから、子どもの「助けて!」という気持ちや恐怖心が高まっているのが伝わります。魔王は、最初は明るい曲調で子どもを優しく誘っていましたが、最後の「さらってくぞ」で音が急激に低くなり、怖い口調になったことから、本性を現した感じがします。子どもと魔王の声を比べると、1人で歌っているのにキャラクターが全く違って聴こえました。作曲家の工夫と、演奏者の工夫が合わさって、『魔王』の曲の面白さや魅力が生まれているのだと思います。</p>		

8 話し合いのデザイン（題材を通して）

「引き出す」発問

なぜ『魔王』は、“今も昔も”聴き手を惹きつけるのだろうか？

歌曲の王と呼ばれるシューベルトが18歳のときに作った作品だから、単純に「すごいな」と思う。

1人の歌手が4人の登場人物を歌い分けていて、聴いていて飽きないし、面白いから。

何が起こるかわからない不気味な感じがして、ストーリーが気になるから、聴き入ってしまう。

「Mein Vater!」が強烈で、思わず真似して口ずさんでしまう。曲に何かしかけがあると思う。

「考える」発問

『魔王』の魅力を見つけよう！

4回出てくる子どもの声は、どんどん高くなっていった。声の音色は、最後にいくにつれて叫ぶように強く歌われていて、子どもの「助けて!」という気持ちや恐怖心が強くなっているのが伝わってくる。

子どもの声が高く・強くなっていくのは、魔王への抵抗の表れだと思う。子どもの恐怖心や焦り等の気持ちを聴き手に伝えるために、作曲者はメロディの作り方を、演奏者は歌い方を工夫している。

魔王は、最初は優しい歌い方で子どもを誘っているような感じを出していたけど、「さらってくぞ」のところは歌い方に勢いがある、本性を表した感じがする。歌詞の内容と合わせて聴くと、自分まで怖くなる。

子どもの声と比べると、魔王はやわらかい声で楽しそうに歌われていて、その歌い分けがすごい。最後にいくにつれて、深刻な声になる。楽しそうなときは、リズムも踊っている感じで作曲されている。

合唱版の『魔王』は、ハーモニーがあって迫力は感じられるけど、暗い森の中を父と子の2人きりで馬を走らせているという怖さや、何かが出てきそうという怖さは感じなかった。

合唱版の『魔王』を聴くと、改めて1人で4人の登場人物を歌い分けているのがすごいと思う。歌う人を変えればキャラクターを変えるのも簡単そうだけど、1人だと沢山の技術が必要だと思う。

「深める」発問

なぜ『魔王』は、“今も昔も”聴き手を惹きつけるのだろうか？

シューベルトは、歌詞の内容（ストーリー）に合わせて登場人物の声の音色や強弱、音の高さを変化させる等、音楽を工夫していて、演奏者も4役を1人でうまく歌い分けているから、聴き手に色々な感情や場面を想像させ、音楽に引き込むことができる。それが、205年もの間愛される『魔王』の魅力の1つだと思う。

『魔王』のことを何も知らずに聴いたときと、学習を終えて聴いたときとはまるで感じ方が違って、何倍も面白く聴くことができた。なぜかという、シューベルトと演奏者が、登場人物の心情を表すために色々な工夫をしているから。音楽で、作曲された当時の人となつなげることができるのだと思った。

魔王の「さらってくぞ」のところだけ日本語で歌ったときに、日本語だと勢いが出なかったから、ドイツ語であるということが重要。合唱版では子どもの「お父さん」が女声で歌われていたけれど、それでは迫力がありすぎて、子どもの感じがしなかった。男声の独唱であるということが、この曲の良さを高めている。

怯える「子」と子をいたわる「父」との対話、そして「魔王」の甘いささやきを、声の音色や強弱の変化で見事に表現している演奏者の音楽的な工夫が、聴き手を惹きつけるのだと思う。ピアノ伴奏の緊張感も合わさって、『魔王』の世界観をつくっている。他の演奏者が歌っている『魔王』とも聴き比べてみたい。